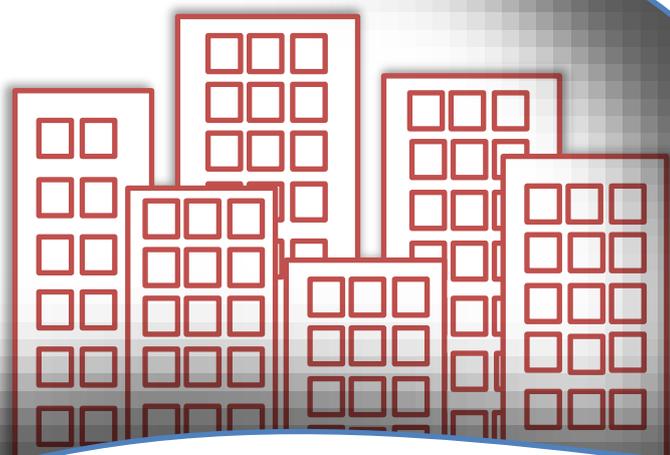


西区防災計画

きらぽかプラン
～自助・共助編～



西区役所 地域支援課 防災担当

はじめに

日本の国土は、気象や地理的な条件から、地震や台風等自然災害が発生しやすく、近年では各地で地震や台風、ゲリラ豪雨による浸水被害が発生しています。

平成23年3月には東日本大震災が発生、甚大な被害をもたらしており、南海トラフによる巨大地震がいつ発生してもおかしくないといわれています。

また、平成28年4月には熊本地震が発生し、局地的に大きな被害をもたらしました。大阪市内にも上町断層が存在し、内陸型(直下型)地震にも備えなければなりません。

こうした自然災害を未然に防止することはできませんが、日ごろからの備えや取組により被害を最小限に抑えることはできます。

「自分の命は自分で守る」

「自分たちのまちは自分たちで守る」

ためには、日ごろから、防災について正しい知識を得て、近隣で助け合えるような信頼関係を築いておくことが大切です。

この「西区防災計画（きらぽかプラン）」は、大地震等に備えて準備を進めていただく際の一助となるよう、自助・共助を中心に記載しています。

令和3年3月

大阪市西区役所

目 次

大阪市防災・減災条例について

～自助・共助・公助で命を守る～	1
①大阪市・市民・事業者の責務と役割の明確化、連携協力	
②自主防災組織の確立による地域防災力の向上	
③地域特性をふまえた災害リスクへの対応	
④多様な主体による参加・参画推進	

大阪市防災計画について	2
-------------	---

1、災害想定と被害想定

○様々な災害と被害の想定について	3
【地震】	3
□内陸型地震	
□海溝型地震	
【津波・風水害】	8
□津波について	
□津波が発生する恐れがある場合	
□浸水深サイン（どうぶつものさし）	
□その他風水害時の注意点	

2、自助・共助・公助について

○『自助』『共助』『公助』とは・・・	18
--------------------	----

3、災害への取り組み

○平常時の取り組み	20
【自助】	20
□災害時に自分自身や家族を守るための対策や備え	
□その他の対策	
【共助】	26
□自主防災組織	
□各災害（風水害・地震・津波・火災等）に対応できる体制づくり	
□災害時地域協力貢献事業所	
□マンションコミュニティ	

○災害時の取り組み	34
-----------	----

【自助】	34
------	----

安全確認や安否確認等

初期消火活動

【共助】	38
------	----

災害時の共助

避難所・避難場所の安全確認

【水平避難と垂直避難】	41
-------------	----

○災害後	44
------	----

【避難生活】	44
--------	----

4、避難行動要支援者支援

<input type="checkbox"/> 避難行動要支援者	47
-----------------------------------	----

<input type="checkbox"/> 避難行動要支援者名簿の取り扱い	48
--	----

5、区と区民の皆さんの取り組み

<input type="checkbox"/> 各地域での防災訓練	50
------------------------------------	----

<input type="checkbox"/> マンション防災	52
----------------------------------	----

<input type="checkbox"/> その他防災に関する活動	53
--------------------------------------	----

<input type="checkbox"/> 災害備蓄物品の紹介	55
------------------------------------	----

<input type="checkbox"/> 淀川左岸水防事務組合	57
-------------------------------------	----

6、西区役所の災害時の体制

<input type="checkbox"/> 災害応急対策実施要領	59
-------------------------------------	----

<input type="checkbox"/> 災害時のいざというときの連絡先	59
--	----

大阪市防災・減災条例について

～自助・共助・公助で命を守る～

大阪市では、平成 27 年 2 月 1 日から大阪市防災・減災条例を施行し、公助に加えて、自助・共助による防災・減災の仕組みづくりを推進しています。

① 大阪市・市民・事業者の責務と役割の明確化、連携協力

大阪市と市民・事業者の防災に関する主な責務と役割を明確化しました。

●大阪市

- ・大阪市・区地域防災計画の作成
- ・自主防災活動への支援
- ・災害時の市民生活の安定を図るための業務継続計画の作成

●市民

- ・自宅等の安全性の確保や防災知識の習得
- ・防災訓練への参加
- ・自主防災組織の結成

●事業者

- ・事業所等の安全性の確保や防災資機材の整備
- ・防災訓練への参加
- ・防災・減災計画や災害時の事業継続計画の作成

② 自主防災組織の確立による地域防災力の向上

地域における自助・共助を推進し、市民の皆さんや自主防災組織の取組を通じて、防災力向上を図ります。

●地区防災計画の作成、自主防災活動の推進

●毎年 1 回以上の防災訓練の実施

●避難や災害に関する情報収集

- ・あらかじめ避難場所や避難経路等の確認をしておく。
- ・災害発生時やそのおそれがある時には、自ら積極的に情報収集を行う。

●避難場所の確保

・地域の特性に応じて、施設管理者の協力を得て、あらかじめ津波等による浸水から避難することのできる場所の確保に努める。

●災害時の避難所運営への協力

●避難行動要支援者の避難支援

・自主防災組織は、避難行動要支援者の避難支援に関する計画を作成し、必要な取組を行うよう努める。

③ 地域特性をふまえた災害リスクへの対応

大阪市と市民・事業者は、次のことに取り組みます。

- 豪雨等による浸水被害防止・軽減対策
- 地下街等の管理者による津波や豪雨による浸水からの避難確保計画の作成及び実施
- 大阪市施設の耐震対策や市民・事業者による建築物の耐震化の促進
- エレベーター閉じ込め防止対策
- 建築物の不燃化等市街地の防災構造の改善
- ターミナル駅周辺での帰宅困難者対策の推進

④ 多様な主体による参加・参画推進

- 大阪市は、女性や高齢者、障がい者等、さまざまな人が防災・減災対策に参画しやすい環境づくりを進めます。
- ニーズに応じた備蓄品目の拡充等、避難行動要支援者（高齢者、障がい者、乳幼児等）に配慮した防災・減災対策を進めます。

大阪市防災計画について

市地域防災計画

- 大阪市防災会議が作成する、市全体の災害予防、災害応急対策、災害復旧・復興に関する内容を定めた計画
- 本市・行政機関・公共機関等の防災対策や、市民等・事業者による自主防災活動との連携・支援等、総合的な防災活動を記したもの

区地域防災計画

- 各区役所が、市地域防災計画をもとに区の特性をふまえて作成する、区の災害予防、災害応急対策、災害復旧対策に関する内容を定めた計画

地区防災計画

- 地域の住民や事業者の方々が作成する、地域の防災活動に関する内容を定めた計画
- 地域での防災訓練の実施や、食料や水等の備蓄、高齢者等の避難支援等、地域の自発的な『共助』による防災活動を記したもの

1、災害想定と被害想定

○様々な災害と被害の想定について

【地震】

内陸型地震

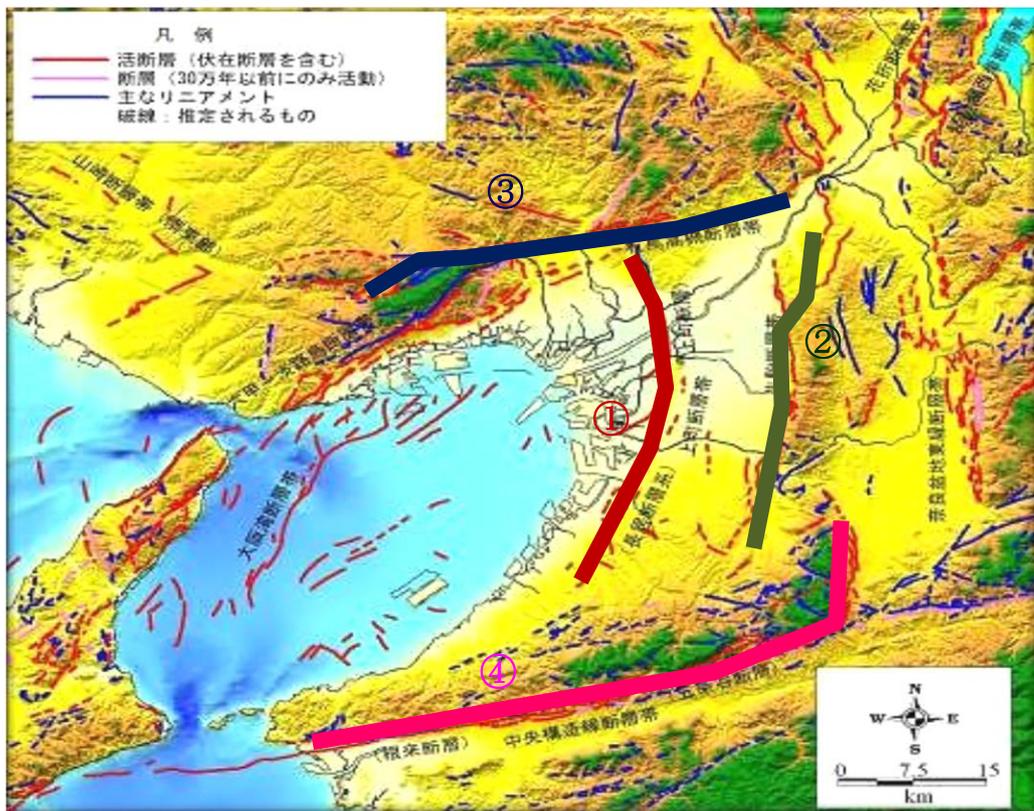
内陸型地震とは、陸地の地下（ユーラシアプレートの内部）で活断層がずれて起こる地震をいい、①揺れている時間が短い（10秒から数十秒）、②震源が浅いため、断層の近くでは揺れが激しい、③千年から1万年程度の間隔で発生する等の特徴があり、兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）や平成28年4月に発生した熊本地震がその代表例です。

西区域への影響が想定される内陸活断層の位置とそれぞれの地震による震度分布は、下図のとおりです。

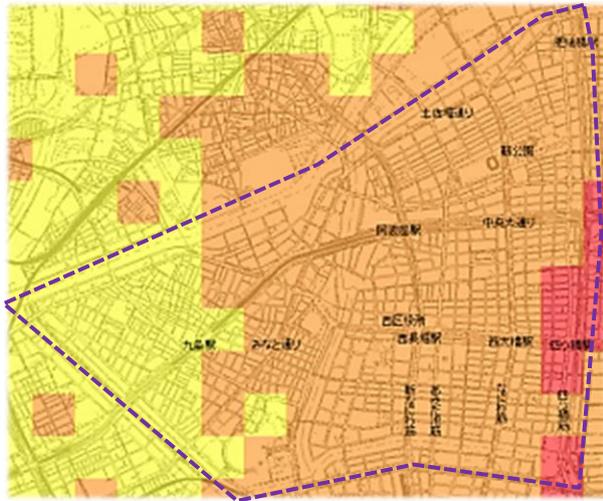
- ①上町断層帯 ②生駒断層帯 ③有馬高槻断層帯 ④中央構造線断層帯

内陸活断層の位置

内陸活断層による地震の震度分布



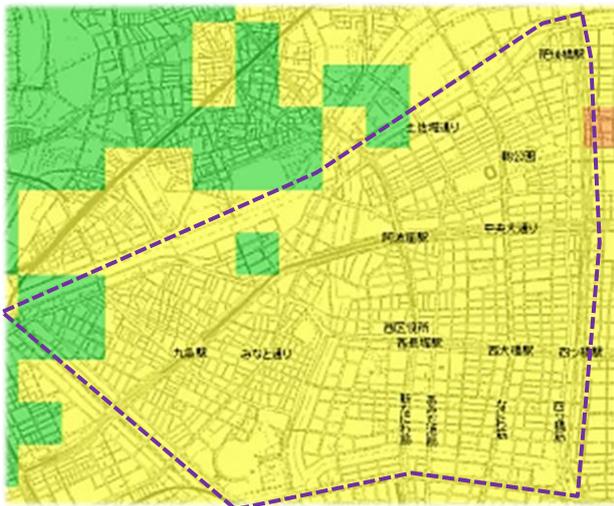
①上町断層帯地震



地震規模 (マグニチュード)		7.5 ~ 7.8
西区 被害想定	震度	5強 ~ 7
	死者数	222人
	建物の 全半壊	4,888棟

震度分布予想図	震度 4 以下	
	震度 5 弱	
	震度 5 強	
	震度 6 弱	
	震度 6 強	
	震度 7	

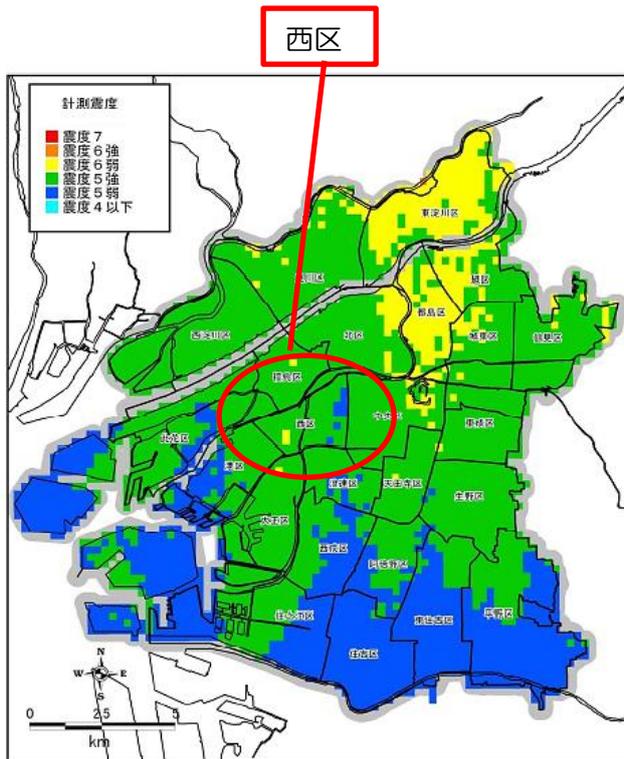
②生駒断層帯地震



地震規模 (マグニチュード)		7.3 ~ 7.7
大阪市の 被害想定	震度	5弱 ~ 6強
	死者数	約 1,400 人
	建物の 全半壊	約 13.5万棟

震度分布予想図	震度 4 以下	
	震度 5 弱	
	震度 5 強	
	震度 6 弱	
	震度 6 強	
	震度 7	

③有馬高槻断層帯地震



地震規模 (マグニチュード)		7.3 ~ 7.7
大阪市の被害想定	震度	5弱 ~ 6弱
	死者数	約100人
	建物の全半壊	約1.4万棟

震度分布予想図	震度4以下	
	震度5弱	
	震度5強	
	震度6弱	
	震度6強	
	震度7	

④中央構造線断層帯地震



地震規模 (マグニチュード)		7.7 ~ 8.1
大阪市の被害想定	震度	4 ~ 5強
	死者数	0人
	建物の全半壊	約0.2万棟

震度分布予想図	震度4以下	
	震度5弱	
	震度5強	
	震度6弱	
	震度6強	
	震度7	

海溝型地震

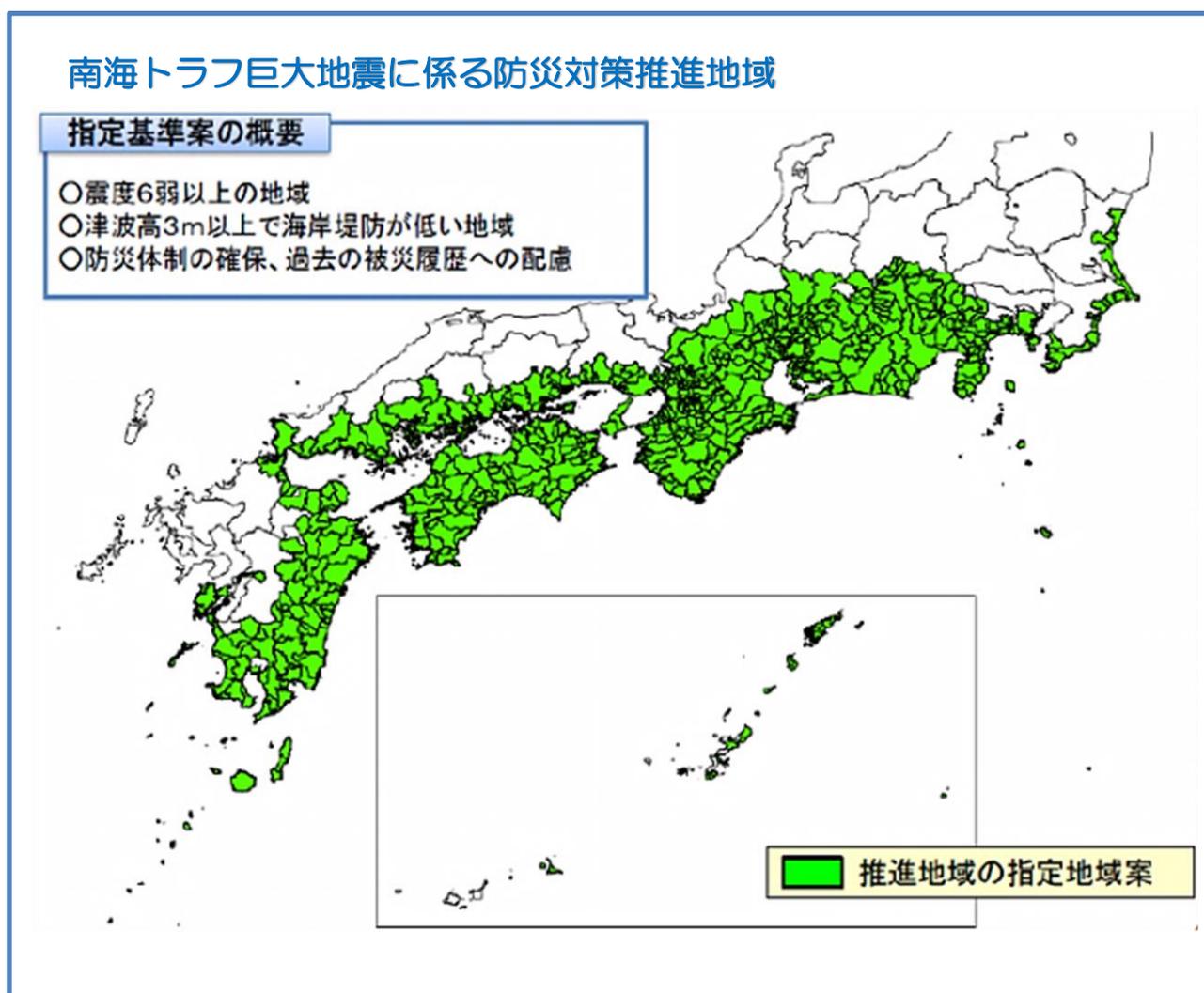
海溝型地震とは、海洋プレートが大陸プレートの下に沈み込み続けているために、ひずみが限界に達すると大陸プレートが跳ね上がって起こる地震をいいます。

- 揺れている時間が長い（1分以上）
- 津波が襲ってくる可能性が高い
- 90年から150年程度の間隔で発生する 等の特徴があります。

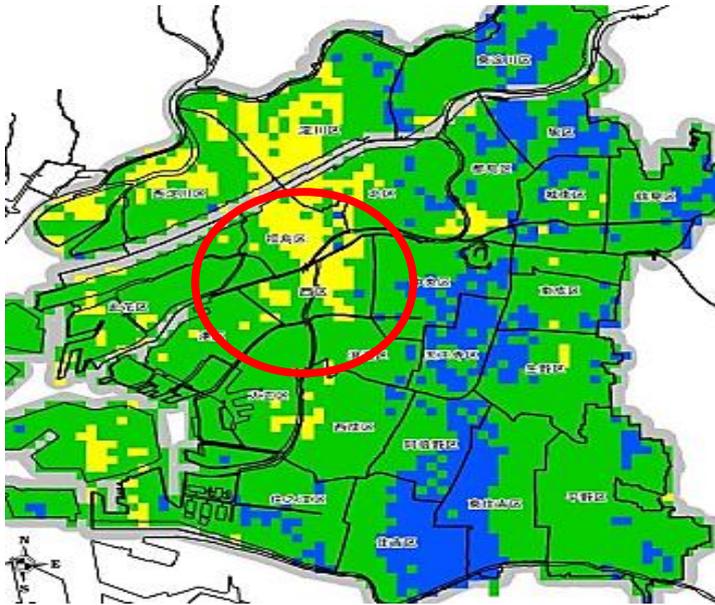
東南海地震、南海地震は100年から150年の周期でマグニチュード8クラスの巨大地震が発生しており、今世紀前半にも発生するといわれています。

さらに、東海地震を加えた3つの地震が連動して発生する【南海トラフ巨大地震】の可能性もあります。

以下、想定される震源域と震度分布を示します。

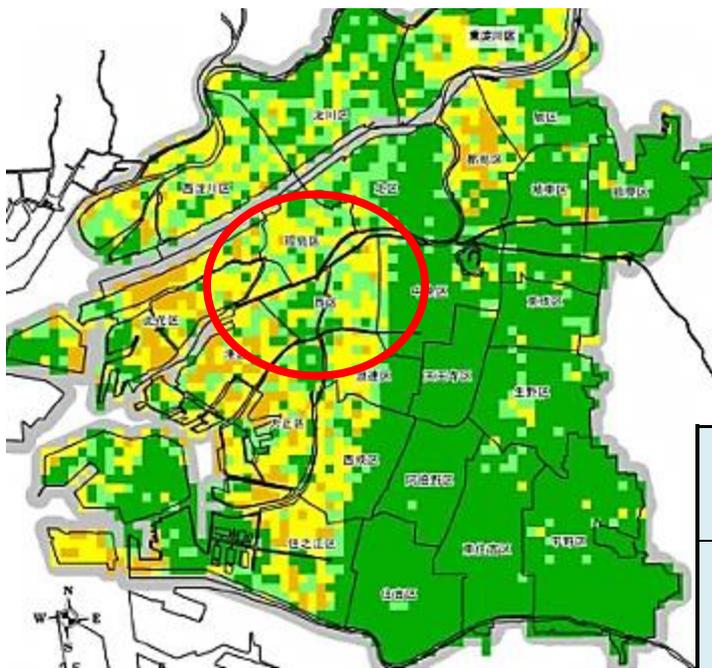


東南海・南海地震



地震規模 (マグニチュード)		7.9~8.6
大阪市被害想定	震度	5弱~6弱
	死者数	約100人
	建物の 全半壊	2.6万棟

南海トラフ巨大地震



震度分布予測

- 東南海・南海
- 震度7
 - 震度6強
 - 震度6弱
 - 震度5強
 - 震度5弱
 - 震度4以下

地震規模 (マグニチュード)		9.0~9.1
西区被害想定	震度	6弱
	死者数	20,249人
	建物の 全半壊	11,620棟

【津波、風水害】

津波について

南海トラフ巨大地震が発生すれば、発生後、最短で1時間50分で津波の第1波が淀川・大和川・木津川等の河口に到達すると想定されています。

津波の特徴としては、

- ・ 速くて力が大きい
- ・ 繰り返してやってくる
- ・ 引き波があるとは限らない 等があります。

津波の高さ

	南海トラフ巨大地震（H25.8）	【参考】東南海・南海地震（H19.3）	
	[海岸線から沖合い30m地点における津波水位]	[海岸付近最大値]	[各区最大値]
此花区	OP+5.4m (TP+4.1m) <3.2m>	OP+4.1m (TP+2.8m) <2.0m>	OP+4.3m (TP+3.0m) <2.2m>
港区	OP+5.8m (TP+4.5m) <3.6m>	OP+4.5m (TP+3.2m) <2.4m>	OP+4.6m (TP+3.3m) <2.5m>
大正区	OP+5.9m (TP+4.6m) <3.7m>	OP+4.5m (TP+3.2m) <2.4m>	OP+5.0m (TP+3.7m) <2.9m>
西淀川区	OP+5.6m (TP+4.3m) <3.4m>	OP+4.1m (TP+2.8m) <2.0m>	OP+4.3m (TP+3.0m) <2.2m>
住之江区	OP+6.4m (TP+5.1m) <4.2m>	OP+4.5m (TP+3.2m) <2.4m>	OP+4.8m (TP+3.5m) <2.7m>

※ OP表示の潮位は、大阪市の満潮位 OP+2.2m を設定<>内は満潮位からの高さ。

※ 海岸に面している地区のみを公表（ただし想定場所は不明）、南海トラフ巨大地震（H25.8）と従来想定（H19.3）の場所は必ずしも同じではない。

※ OP：大阪湾最低潮位 TP：東京湾平均海面（OP=TP+1.3m）

津波到達時間（地震発生後最短到達時間（分））

	南海トラフ巨大地震（H25.8）※1	【参考】東南海・南海地震（H19.3）※2
此花区	113	105
港区	114	115
大正区	117	115
西淀川区	116	115
住之江区	110	105

※1 +1mの津波が来襲する時間

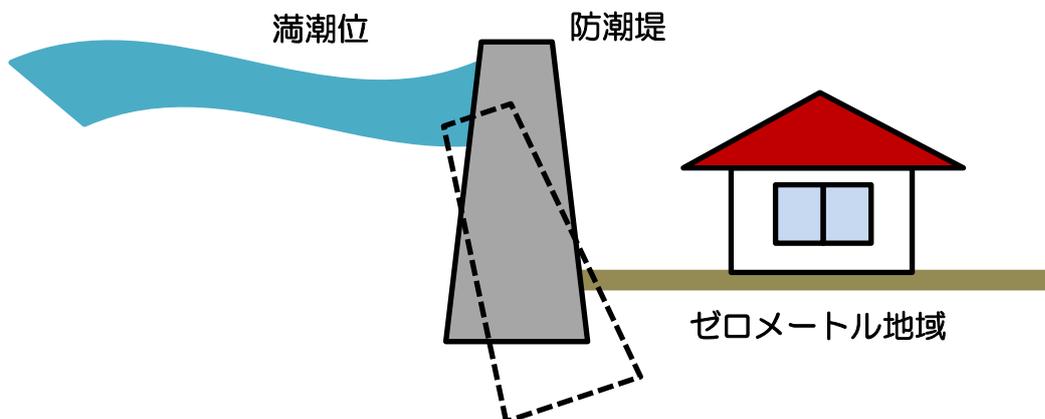
※2 津波が来襲し、水位が静水面より正値になった時間

〈津波が到達するまでに防潮堤の沈下等により浸水する地域〉



-  地震発生後 10 分以内に、河川からの溢水により浸水（30cm 以上）する区域（朔望平均満潮時）
-  津波による浸水が 30cm になるまでの間に、河川からの溢水により浸水（30cm 以上）する区域（朔望平均満潮時）

（防潮堤の沈下による満潮時の浸水イメージ）



【参考】南海トラフ巨大地震に係る「堤防沈下等」、「津波」による死者数

(平成 25 年度 大阪府防災会議 南海トラフ巨大地震災害対策等検討部会資料より)

		北	都島	福島	此花	中央	西	港	大正	浪速
早期避難率低 ※3	堤防沈下等 ※1	0	0	187	1,398	0	413	1,121	213	414
	津波 ※2	16,198	153	8,404	7,873	1	19,833	8,744	6,647	845
避難迅速化 ※4	堤防沈下等 ※1	0	0	2	591	0	38	421	103	308
	津波 ※2	0	0	0	0	0	0	0	0	0

		西淀川	淀川	城東	鶴見	住之江	住吉	西成	計
早期避難率低 ※3	堤防沈下等 ※1	12,978	37	2,179	0	25	0	9	18,974
	津波 ※2	6,746	13,511	876	9	5,006	40	5,489	100,375
避難迅速化 ※4	堤防沈下等 ※1	5,665	24	730	0	0	0	0	7,882
	津波 ※2	0	0	0	0	0	0	0	0

※1、2 堤防沈下による被害は、地震発生と朔望平均満潮時が重なる条件の下、津波による浸水が 30cm になるまでの間に、防潮堤の沈下に伴い、河川からの溢水による浸水（30cm）で発生すると予想されるもの

※3、4

	避難行動別の比率		
	避難する		切迫避難あるいは 避難しない
	直接避難	用事後避難	
避難開始時間	発災 5 分後	発災 15 分後	津波到達後
避難迅速化	100%	0%	0%
早期避難率低	20%	50%	30%

夜間（夕方）については、避難開始をそれぞれ 5 分加算